

地球規模の気候変動がもたらす投資機会とリスク

シェリア・アンティア
 デイビッド・クラウスナー

目 次

- 1. 気候変動のマクロ経済的影響
- 2. 市場に織り込まれている気候変動リスクとは
- 3. 資産クラス別の投資インプリケーション
- 4. ポートフォリオへの影響
- 5. 終わりに

今後20年間、気候変動が続くことは、ほぼ確実である。しかし、長期的な投資ホライズン（投資期間）を持つ投資家にとって、気候変動は大きな不確実性をはらんでいる。多くの機関投資家は気候変動が重要なリスクであることを認識しているが、実際の投資判断においては、それを考慮していない。本稿では、気候変動に起因するリスクと潜在的な投資機会を考察し、機関投資家がポートフォリオ策定に当たり考慮すべき点を明らかにする。

1. 気候変動のマクロ経済的影響

気候変動は、地球や気象システムを変化させるだけでなく、世界経済を変化させている。この変化は、今後数十年にわたって資源の世代間再配分を促し、新たな勝ち組・負け組の国や業種の出現につながる。気候変動が労働生産性、農業生産性、財政支出を介して経済成長率を低下させるメカニ

ズムについては、実証的な根拠に基づいた研究が確立されている。ここでは、投資家が考慮すべき点を3点指摘したい。

(1) 国や業種によって影響は大きく異なる

気候変動が経済成長に与える影響は、国ごとに異なり、多くの新興国が影響を受ける一方で、極地に近いいくつかの先進国ではほとんど影響を受



Shehriyar Antia (シェリア・アンティア)

PGIM Inc. ヘッド・オブ・テマリサーチ。2019年PGIM Inc.にヘッド・オブ・テマリサーチとして入社。それ以前は、ニューヨーク連邦準備銀行を経て、民間金融機関でエコノミストとして経済調査に従事。コロンビア大学大学院修士（国際経済金融）。



David Klausner (デイビッド・クラウスナー)

PGIM Inc. テマリサーチ ディレクター。2011年プルデンシャル・グループ入社。途中、修士課程の履修期間をはさみ、2016年より現職。ハーバード公共政策大学院修士（公共政策）、ニューヨーク大学・香港科技大学大学院修士（国際金融）。